

平成29年9月13日

平成29年度病虫害発生予報第6号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稻	紋枯病	やや多	やや多
	トビイロウンカ (注意報第4号継続)	やや多	多
大豆	ハスモンヨトウ	並	やや多
	吸実性カメムシ類 (防除情報第14号)	やや多	やや多
いちご	うどんこ病	並	並
	炭疽病 (<i>G. cingulata</i>)	並	やや多
	ハダニ類 (注意報第5号)	多	多
	ハスモンヨトウ	やや少	並
アスパラガス	斑点性病害 (褐斑病・斑点病) (注意報第6号)	多	多
	アザミウマ類	やや多	やや多
かんきつ	緑かび病、青かび病	—	並
	ミカンハダニ	並	並
果樹共通	カメムシ類 (注意報第7号)	多	多
茶	炭疽病	並	やや多
	カンザワハダニ	やや少	やや少
	チャノキイロアザミウマ	並	並
	チャノコカクモンハマキ	並	並
	チャノホソガ	やや少	やや少
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	やや多
	クワシロカイガラムシ	やや少	やや少

【発生予報】 本文の () 内は平年値

普通期水稻

1. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(89筆)の結果、発病株率は5.9%(2.3%)、発生圃場率は34.8%(36.5%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は46.5%(43.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤散布は株元に薬剤が十分付着するよう丁寧に行う。

イ 収穫時期が近いので、薬剤の散布時期に注意し使用基準を遵守し、圃場周辺への飛散がないよう十分注意する。

2. トビイロウンカ

平成29年9月11日付け、病虫害発生予察注意報第4号を継続。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

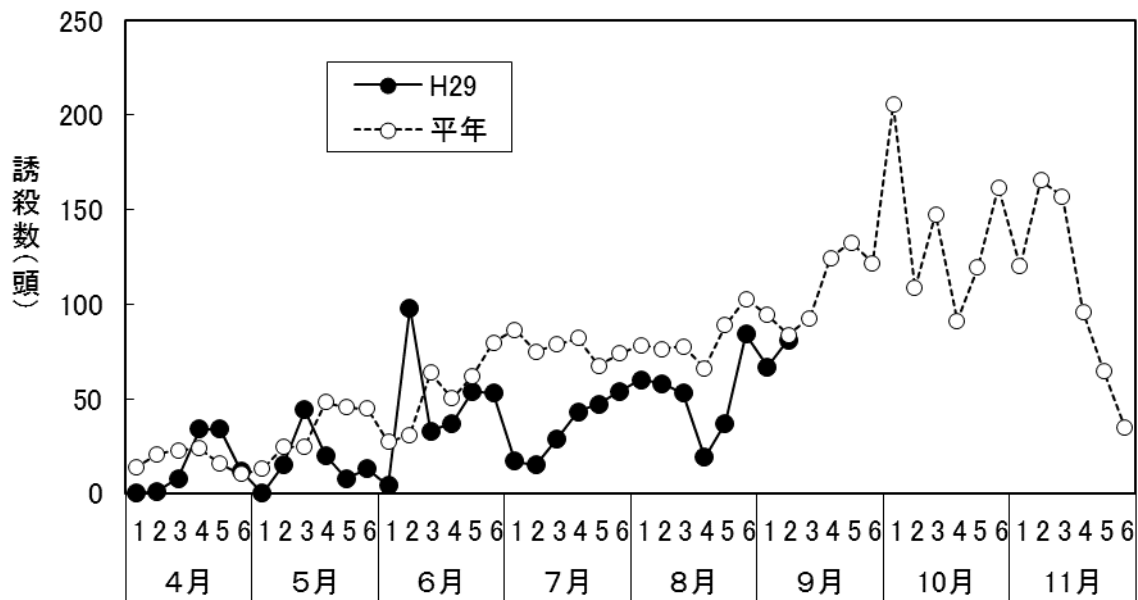
(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は7.7%(10.6%)、株当たり虫数は0.2頭(0.6頭)、白変葉発生圃場率は13.3%(54.2%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は8.0%(8.8%)、株当たり虫数は6.4頭(0.1頭)であった。

ウ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、やや少~並で推移している(図)。

エ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。



(月・半旬)

図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)
平年:H19~28年の平均値(最大・最小値除く)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。

イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

2. 吸実性カメムシ類

平成29年9月13日付け、**病害虫発生予察防除情報第14号**による。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（33筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.04%、発生圃場率2.3%）。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 発生状況

ア 9月前期の巡回調査（33筆）の結果、発病株率は0.08%（0.38%）、発生圃場率は15.2%（17.4%）であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本病の発生に好適である。

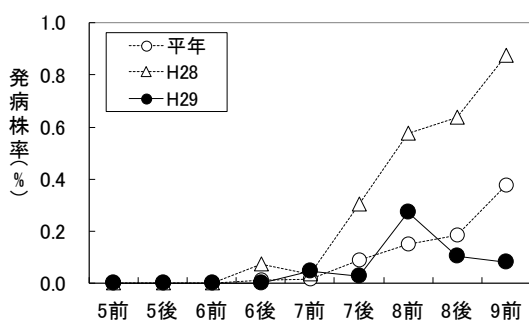


図 炭疽病(*G. cingulata*) 発病株率の推移

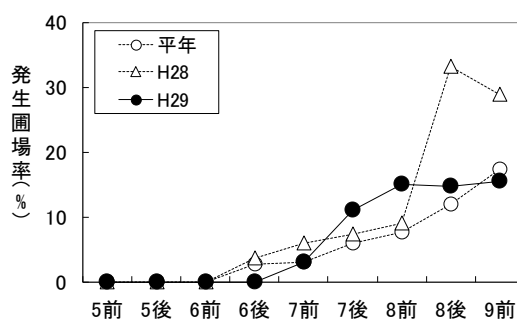


図 炭疽病(*G. cingulata*) 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株およびその周辺の株は速やかに処分するとともに、定植前の選別を徹底し、疑わしい株は定植しない。

イ 本圃で発病を認めた場合は速やかに抜き取り圃場外へ持ち出す。除去した発病株や茎葉は伝染源となるので圃場内やその周辺に放置しない。

ウ 強風雨や台風の前夜など発生のおそれがあるときは薬剤散布を徹底する。

3. ハダニ類

平成29年9月13日付け**病害虫発生予察注意報第5号**による。

4. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査（33筆）の結果、食害株率は0.5%（2.3%）、発生圃場率は15.2%（29.6%）であった。

イ フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は、やや少～並で推移している（大豆の項参照）。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みで、本虫の発生に好適である。

アスパラガス

1. 斑点性病害（褐斑病・斑点病）

平成29年9月13日付け**病害虫発生予察注意報第6号**による。

2. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査（12筆）の結果、払い落とし虫数（10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所）は7.2頭（4.8頭）、発生圃場率は66.7%

(53.2%)であった。

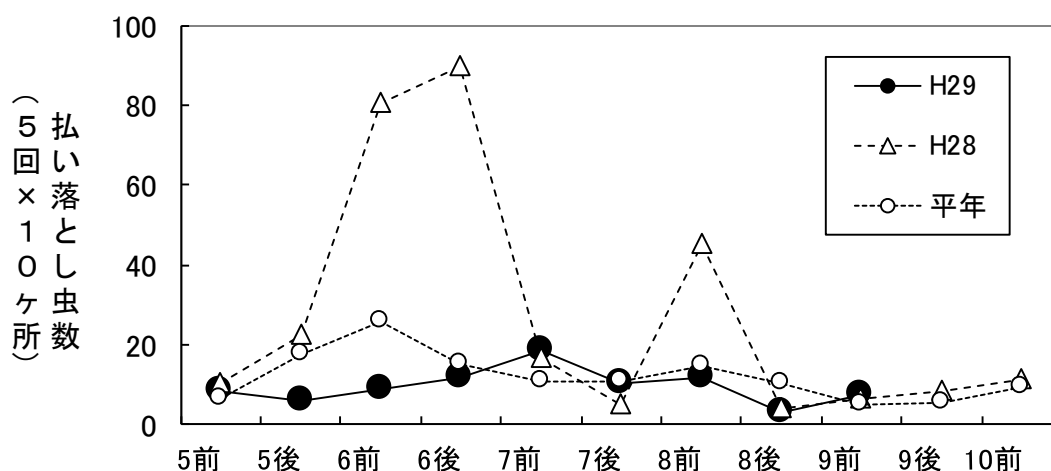


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 하우스内および周辺の雑草は本虫の生息・増殖源となるので除去する。
- イ 薬剤散布は株の内部まで十分付着するよう丁寧に行う。
- ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

かんきつ

1. 緑かび病、青かび病

- (1) 予報内容
発生程度 並
- (2) 予報の根拠
向こう1か月間の降水量は平年並の見込みである。

2. ミカンハダニ

- (1) 予報内容
発生程度 並
- (2) 予報の根拠
9月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は10.1%(5.4%)、発生圃場率は44.4%(44.8%)で、一部、多発生圃場があった。

果樹共通

1. カメムシ類

平成29年度9月13日付け、**病害虫発生予察注意報第7号**による。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり発病葉数は4.8枚(5.2枚)、発生圃場率は80.0%(55.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.4%(1.6%)、発生圃場率は10.0%(21.9%)であった。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は13.4頭(17.8頭)、発生圃場率は90.0%(86.6%)であった。

4. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.1枚(0.3枚)、発生圃場率は10.0%(15.6%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年並で推移している(図)。

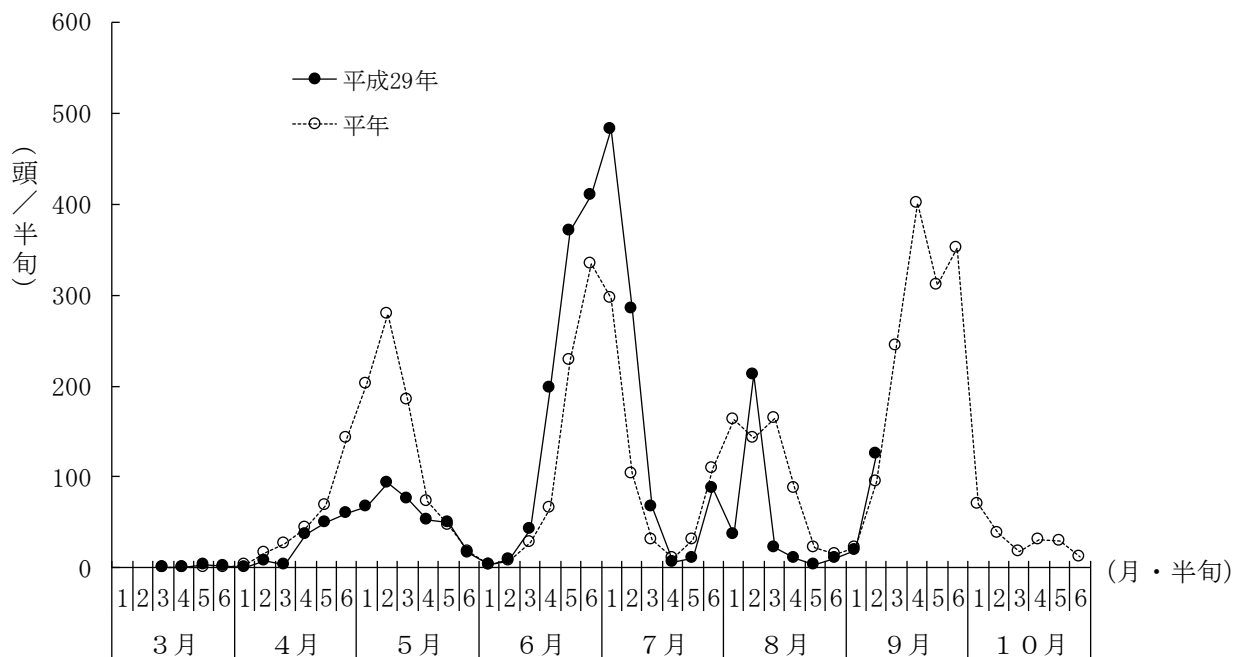


図 チャノココクモンハマキの誘殺状況(東彼杵：フェロモントラップ)

5. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 9月前期の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たり巻葉数1.0枚、発生圃場率30.0%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、平年並で推移している(図)。

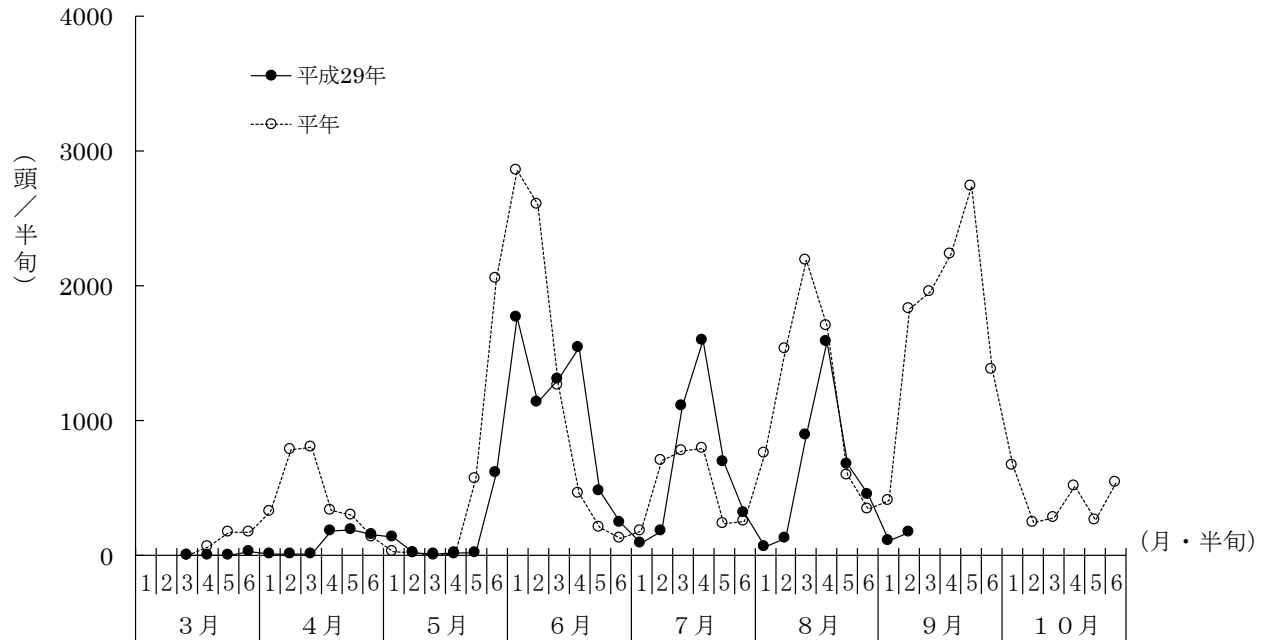


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は3.0頭(1.7頭)、発生圃場率は70.0%(53.1%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月前期の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は0.5%(4.0%)、発生圃場率は10.0%(26.9%)であった。

